

2026年度 和泉短期大学 シラバス【児童福祉学科】

授業科目名 科目ナンバー	保育内容「健康」 Ⅲ-6-2-1①		教員氏名 中山 恭一
学年	1年	開講学期	前期
授業形態	演習	単位数	1単位
必修・選択	保育士・幼免必修	実務経験	
テーマ	幼稚園教育要領・保育所保育指針等に示された領域「健康」のねらい及び内容に基づき、乳幼児期の子ども達の心		
ディプロマ ポリシー	1.保育・福祉に関する基礎的な学修を通して、幅広い教養を身に付け、多様な人々を支える社会の理念・仕組みについての原理を理解している。 2.保育・福祉の専門的な知識・技能を修得し、思考力、判断力、表現力、コミュニケーション力を身に付けている。 3.保育・福祉の専門職として多世代にわたる人々の権利を護り、愛と奉仕の精神を実践できる。		○
カリキュラム ポリシー	科目群Ⅰ 教養	キリスト教主義の精神を踏まえて、保育と人権にかかわる人としての価値観を再構築する	
	科目群Ⅱ 原理	様々な世代を支える社会の理念・仕組みについての学びを通して、愛と奉仕に基づく人間観を養う	
	科目群Ⅲ 知識・技能	子どもの心と体とそれを取り巻く環境を知り、共に成長するための様々な支援の内容と方法に関する専門的な知識と技能を身につける	
	科目群Ⅳ 実践	学んだ知識、技能、価値観を現場に即して臨機応変に実践できる体験を積み、キャリア形成の基礎を培う	
授業の概要	《子どもが心身共に健康に成長して行く為には、五感を通じた体験を沢山することが大切である。そして、そばにいる信頼できる大人の声掛けや関わり方によって、成長に大きな影響をもたらす。》この乳幼児期の発育発達に関わる特徴を基に、多様な事例を検証し、多角的な視点から子ども達を取り巻く環境要因を分析し、援助の仕方を学ぶ。授業形式においては、アクティブ・ラーニング的要素〔グループワーク、ディスカッション、ロールプレイ、PBL(課題解決型学習)、ICT〕を積極的に活用し、主体的・対話的に学びを深める。		
授業の 到達目標	1. 領域「健康」についての基礎的な知識を理解し、説明できる。 2. 幼少期の子ども達の健康に関わる現状と課題を把握し、アクティブラーニングを通して主体的・対話的に学びを深めることできる。 3. 健康や食、安全に関する課題に関心を持ち、保育者として必要な援助の仕方を理解し配慮できる。		
テキスト	保育内容 健康 あなたならどうしますか？ 萌文書林 2020 酒井幸子・松山洋平編		
参考書	厚生労働省「保育所保育指針」・文部科学省「幼稚園教育要領」・内閣府「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」・文部科学省「幼児期運動指針」		
往還型授業 (双方向授業)	授業内での疑問や、学びを進める中で生じた不明点を、対話を通じて授業内で明確にする		○
	リアクションペーパーを用いて授業内での疑問等を対話形式にて対応する		
	リアクションペーパーの内容やテーマをICTを用いて授業内で受講者全員に公開・共有し、往還的理解を深める		○
	ICT(グーグルクラスルーム含む)を活用した課題提示・回収、アンケート等を実施する		○
その他: 特記事項なし			
成績評価方法	区分	割合(%)	内容
	定期試験・ 筆記試験		実施しない
	授業内課題 ・発表等	70	課題の理解
	参加度・ 学習態度等	30	①授業への積極的参加:15% ②課題への積極的取り組み:15%
その他		特記事項なし	
再試験	行う	行なわない 場合の 理由	

授業概要と課題

第1回	テーマ 内容	◎オリエンテーション ◎《第1章》保育と「健康」《第2章》領域「健康」とは（PBL）	
	授業外学習	①教科書《第1章・第2章》と配布資料の通読 ②関連する情報の収集 ③ICT教材の日常的な活用	55分
第2回	テーマ 内容	◎《第3章》子どもの発達と健康の関係（PBL）	
	授業外学習	①教科書《第3章》と配布資料の通読 ②関連する情報の収集 ③ICT教材の日常的な活用	55分
第3回	テーマ 内容	◎《第4章》子どもの育ちと健康 《第5章》子どもの遊びと健康（ディスカッション, PBL）	
	授業外学習	①教科書《第4章・第5章》と配布資料の通読 ②関連する情報の収集 ③ICT教材の日常的な活用	55分
第4回	テーマ 内容	《第4章》《第5章》にて関心のあるテーマについて焦点を絞り、アクティブラーニングの実践を通して学びを深める（ディスカッション, グループワーク, ICT）	
	授業外学習	①教科書《第4章・第5章》と配布資料の通読 ②関連する情報の収集 ③ICT教材の日常的な活用	55分
第5回	テーマ 内容	◎《第6章》子どもの生活と健康 《第7章》子どもの心と体の健康（ディスカッション, PBL）	
	授業外学習	①教科書《第6章・第7章》と配布資料の通読 ②関連する情報の収集 ③ICT教材の日常的な活用	55分
第6回	テーマ 内容	《第6章》《第7章》にて関心のあるテーマについて焦点を絞り、アクティブラーニングの実践を通して学びを深める（ディスカッション, グループワーク, ICT）	
	授業外学習	①教科書《第6章・第7章》と配布資料の通読 ②関連する情報の収集 ③ICT教材の日常的な活用	55分
第7回	テーマ 内容	◎《第8章》子どもの食と健康 《第9章》子どもの安全と健康（ディスカッション, PBL）	
	授業外学習	①教科書《第8章・第9章》と配布資料の通読 ②関連する情報の収集 ③ICT教材の日常的な活用	55分
第8回	テーマ 内容	《第8章》《第9章》にて関心のあるテーマについて焦点を絞り、アクティブラーニングの実践を通して学びを深める（ディスカッション, グループワーク, ICT）	
	授業外学習	①教科書《第8章・第9章》と配布資料の通読 ②関連する情報の収集 ③ICT教材の日常的な活用	55分
第9回	テーマ 内容	◎《第10章》気になる子どもの健康 《第11章》子どもの健康と子育て支援・連携（ディスカッション, PBL）	
	授業外学習	①教科書《第10章・第11章》と配布資料の通読 ②関連する情報の収集 ③ICT教材の日常的な活用	55分

第10回	テーマ 内容	《第10章》《第11章》にて関心のあるテーマについて焦点をしぼり、アクティブラーニングの実践を通して学びを深める（ディスカッション、グループワーク、ICT）	
	授業外学習	①教科書《第10章・第11章》と配布資料の通読 ②関連する情報の収集 ③ICT教材の日常的な活用	55分
第11回	テーマ 内容	◎学びの到達度確認 ◎《第12章》領域「健康」における今日的課題：課題の把握と対応策①〔課題確認・情報収集〕（ディスカッション、ICT）	
	授業外学習	①教科書と配布資料の通読 ②関連する情報の収集 ③ICT教材の日常的な活用	55分
第12回	テーマ 内容	◎《第12章》領域「健康」における今日的課題：課題の把握と対応策②〔検証・まとめ〕（ディスカッション、ロールプレイ、ICT）	
	授業外学習	<予習>教科書と配布資料の再通読及び関連する情報の収集 <復習>①教科書と配布資料の再通読 ②ICT教材の日常的な活用	55分
第13回	テーマ 内容	◎《第12章》領域「健康」における今日的課題：課題の把握と対応策③〔グループ内発表〕（プレゼンテーション）	
	授業外学習	①教科書と配布資料の通読 ②関連する情報の収集 ③ICT教材の日常的な活用	55分

課題に対するフィードバックの方法

- ◎学生から寄せられた質問や感想等は、必要に応じて授業中に全学生に対しその内容を伝え解説を加える等の対応を行っている。
- ◎授業内課題およびレポート等は、翌週以降にコメントを付けて返却する。
- ◎理解を深める為に勉強会等を開催している。

2026年度 和泉短期大学 シラバス【児童福祉学科】

授業科目名 科目ナンバー	保育内容「健康」 Ⅲ-6-2-1①		教員氏名	井狩 芳子
学年	1年		開講学期	前期
授業形態	講義		単位数	1単位
必修・選択	保育士・幼免必修		実務経験	
テーマ	保育で扱う乳幼児の健康について、「領域『健康』」の内容にそって、基本の知識を学ぶ			
ディプロマ ポリシー	1.保育・福祉に関する基礎的な学修を通して、幅広い教養を身に付け、多様な人々を支える社会の理念・仕組みについての原理を理解している。 2.保育・福祉の専門的な知識・技能を修得し、思考力、判断力、表現力、コミュニケーション力を身に付けている。 3.保育・福祉の専門職として多世代にわたる人々の権利を護り、愛と奉仕の精神を実践できる。			○
カリキュラム ポリシー	科目群Ⅰ 教養	キリスト教主義の精神を踏まえて、保育と人権にかかわる人としての価値観を再構築する		
	科目群Ⅱ 原理	様々な世代を支える社会の理念・仕組みについての学びを通して、愛と奉仕に基づく人間観を養う		
	科目群Ⅲ 知識・技能	子どもの心と体とそれを取り巻く環境を知り、共に成長するための様々な支援の内容と方法に関する専門的な知識と技能を身につける		
	科目群Ⅳ 実践	学んだ知識、技能、価値観を現場に即して臨機応変に実践できる体験を積み、キャリア形成の基礎を培う		
授業の概要	1、保育観の共有をして、乳幼児の成長に必須である「生理的機能・生活リズム・基本的生活習慣・あそび・安全」の5つの視点について、トピックスを通して基本の知識を習得する。併せて、現代っ子の健康課題を把握する 2、この学びを通し、学生自身が日々の生活を振り返り、自身の健康課題を探り、必要に応じた視点に気付く 3、授業終盤には、学生自身が”育てられる者から育てる者”への変革期であることに気付く 4、授業の前後には、事前事後学習をし、授業内ではワークに取り組む 5、「保育の総合的指導法『健康』(後期科目)」の授業は、本科目と連動する			
授業の 到達目標	1、領域「保育内容『健康』」の、意義・狙い・内容の概要を把握して説明できる 2、自身の健康課題を認識し、改善の具体を実践することができる			
	3、現代日本の子どもの健康課題を把握し、子どもの元気さをはぐくめる保育者として、その役割を説明できる			
	4、乳幼児が、基本的生活習慣を習得し健康で安全な生活を作り出す力を養うための理論を学び、それを説明できる			
テキスト	演習 保育内容健康 萌文書林 2025 井狩芳子著			
参考書	①厚生労働省「保育所保育指針」②文部科学省「幼稚園教育要領」③内閣府「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」④文部科学省「幼児期運動指針」⑤農林水産省「食育基本法」*その他、各関連科目の教科書			
往還型授業 (双方向授業)	授業内での疑問や、学びを進める中で生じた不明点を、対話を通じて授業内で明確にする			○
	リアクションペーパーを用いて授業内での疑問等を対話形式にて対応する			○
	リアクションペーパーの内容やテーマをICTを用いて授業内で受講者全員に公開・共有し、往還的理解を深める			
	ICT(グーグルクラスルーム含む)を活用した課題提示・回収、アンケート等を実施する			○
その他: 授業を欠席した場合、欠席分の課題について積極的に取り組む				○
成績評価方法	区分	割合(%)	内容	
	定期試験・ 筆記試験			
	授業内課題 ・発表等	87	①各回授業時間に実施するワーク課題17% ②全期間の学びの概要把握(筆記試験):70%	
	参加度・ 学習態度等	13	①各回授業への積極的参加	
その他				
再試験	行う	行なわない 場合の 理由		

授業概要と課題

第1回	テーマ 内容	①保育観の捉え方 ②「保育・教育」の意義と役割の理解	
	授業外学習	<予習>シラバス通読、教科書・要領・指針を持参 <復習>配布資料、教科書第1章・2章の通読	55分
第2回	テーマ 内容	①子どもの身体理解 ②現代日本の子どもの健康課題 ③日本の文化と子どものあそび／食育と二十四節気・ご節句	
	授業外学習	<予習>要領・指針等の健康領域箇所の通読 <復習>配布資料、ワーク課題	55分
第3回	テーマ 内容	日本の子どもの健康課題の把握・・・視聴覚教材活用予定	
	授業外学習	<予習>教科書第3章通読 <復習>ワーク課題:自身の健康課題の意識と対応策	55分
第4回	テーマ 内容	現代日本の子どもの健康課題・・・トピックスその1:五感の獲得とその役割 ②立体視力測定	
	授業外学習	<予習>教科書第6章通読 <復習>ワーク課題:自身の五感体験紹介	55分
第5回	テーマ 内容	現代日本の子どもの健康課題・・・トピックスその2:恒温の獲得と保育	
	授業外学習	<予習>教科書第5章通読 <復習>ワーク課題:年長児に向けた恒温の機能についての説明	55分
第6回	テーマ 内容	現代日本の子どもの健康課題・・・トピックスその3:生活リズムの獲得と保育	
	授業外学習	<予習>教科書第4章通読 <復習>ワーク:自身の生活リズムの省察	55分
第7回	テーマ 内容	乳幼児期の発達概要の把握と保障、①協応動作について	
	授業外学習	<予習>教科書第7・8章通読 <復習>ワーク:協応動作の掘りおこし作業	55分
第8回	テーマ 内容	乳幼児期の発達概要の把握と保障、②脳の発達 ③概念形成と言葉の獲得	
	授業外学習	<予習>教科書第9章通読 <復習>ワーク:自身の概念修正のエピソード記録	55分
第9回	テーマ 内容	基本的な生活習慣の獲得と保育者の眼差し 一食事・排泄・清潔・着脱・挨拶一	
	授業外学習	<予習>教科書第10章通読 <復習>ワーク:乳幼児用おもちゃ使用の実態研究(ICT活用、市場調査)	55分

第10回	テーマ 内容	①子どもの遊びと保育者の関わり ②幼児期運動指針	
	授業外学習	<予習>教科書第13章通読 <復習>自身の遊び体験の振り返り	55分
第11回	テーマ 内容	子どもの安全・・・①ハザードとリスクの認識 ②安全管理と安全教育	
	授業外学習	<予習>教科書第11・12章通読 <復習>自身の生活圏に潜むリスクとハザードへの関心	55分
第12回	テーマ 内容	①食育 ②振り返りと展望	
	授業外学習	<予習>教科書第14章・15章通読 <復習>半期間の授業内容の振り返り	55分
第13回	テーマ 内容	学びの到達度確認	
	授業外学習	<予習>半期間の授業内容の復習 <復習>自己採点、後期授業への展望を持つ	55分

課題に対するフィードバックの方法

・課題提出の翌週の授業冒頭で返却・講評(振り返り)